

訪問パターンから宿泊パターンを見ると、基本的には訪問地と宿泊地は同じではあるが、6位の北九州や10位の太宰府は、日帰り観光先であることがわかる。太宰府は2位では宿泊地としてあがってはいるものの、全体でみるとわずかで宿泊は非常に少ない。

図表4—2（24） 主な訪問パターンから見る宿泊パターン

順位	訪問パターン	サンプル数	構成比	宿泊パターン[サンプル数]
1	福岡都心部	59	11.8%	福岡都心部[59] (100.0%)
2	福岡都心部—太宰府	20	4.0%	福岡都心部[18] (90.0%) 太宰府[2] (10.0%)
3	福岡都心部—大分県—熊本県	17	3.4%	大分県・熊本県[4] (23.5%) 福岡都心部[3] (17.6%) 福岡都心部・大分県・熊本県[3] (17.6%)
4	福岡都心部—北九州	17	3.4%	福岡都心部[14] (82.4%) 北九州[3] (17.6%)
5	福岡都心部—太宰府—北九州—大分県—熊本県	15	3.0%	福岡都心部・大分県[5] (33.3%) 福岡都心部[4] (26.7%)
6	福岡都心部—熊本県	13	2.6%	福岡都心部・熊本県[6] (46.2%) 福岡都心部[4] (30.8%) 熊本県[3] (23.1%)
6	福岡都心部—北九州—大分県	13	2.6%	福岡都心部[7] (53.8%) 福岡都心部・大分県[4] (30.8%)
6	宮崎県—鹿児島県	13	2.6%	鹿児島県[6] (46.2%) 宮崎県・鹿児島県[6] (46.2%)
9	福岡都心部—長崎県	11	2.2%	福岡都心部[5] (45.5%) 福岡都心部・長崎県[4] (36.4%) 長崎県[2] (18.2%)
10	福岡都心部—太宰府—長崎県	10	2.0%	福岡都心部・長崎県[4] (40.0%) 福岡都心部[3] (30.0%) 長崎県[3] (30.0%)
10	福岡都心部—太宰府—大分県	10	2.0%	福岡都心部[6] (60.0%) 福岡都心部・大分県[4] (40.0%)

n=500

3. 利用交通機関分析

ここでは九州における主要ルート分析にあたり、旅行者の利用した交通機関の分析を行った。

(1) FF-Data

福岡県を出発地とした利用交通機関を見ると、バスが多いのは宮崎県、大分県で、佐賀県、鉄道とバスがほぼ同数なのは、鹿児島県、熊本県、長崎県、鉄道が多いのは山口県だった。九州北部ではバスの利用が比較的多いと言える。

図表4-2 (25) 福岡県を出発地とした県別利用交通機関 (平成28年)

出発地	福岡県							
	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
バス	1.8%	53.6%	47.5%	39.2%	42.6%	55.5%	69.1%	36.2%
鉄道	75.3%	25.0%	29.1%	47.4%	36.1%	31.9%	2.5%	38.2%
レンタカー	22.9%	4.7%	13.8%	7.5%	17.1%	11.2%	1.1%	10.4%

(2) アンケート調査 (九州を訪れた台湾人観光客)

※北九州市・下関市に立ち寄っていない観光客について調査

訪問地2点間での利用交通機関を見てみると、下記の訪問パターンの利用交通機関は大差がない。基本的には、バスとJR在来線を利用して移動をしているようだが、他県への移動手段には、レンタカーを利用するケースも見て取れる。

図表4-2 (26) 訪問地2点間の利用交通分析

2点間訪問地	回答数	交通機関
福岡都心部—大分県	15	バス[6] (40.0%) JR在来線・電車[5] (33.3%) レンタカー[3] (20.0%)
福岡都心部—太宰府	5	バス[2] (40.0%) JR在来線・電車[3] (60.0%)
福岡都心部—熊本県	5	バス[1] (20.0%) JR新幹線[2] (40.0%) JR在来線・電車[1] (20.0%) レンタカー[1] (20.0%)
福岡都心部—佐賀県	2	レンタカー[2] (100.0%)
福岡都心部—長崎県	2	レンタカー[2] (100.0%)

4. 九州における主要ルート

前項までの各種データ分析から、以下の主要ルートを想定した。

概ね福岡都心部のみ、あるいは福岡都心部—大分県を軸にした比較的量が多いパターンを第1グループとした。福岡都心部または福岡都心部と大分県をベースとしながらも近隣で宿泊を伴う周遊、または北九州市に日帰りで訪れる等、多様な動きがある中で目立つものを第2グループとした。

(1) 第1グループ

・福岡都心部

モバイル空間統計においては当地に留まる行動を測定できないものの、DiGJAPAN!、FF-Data、各データの宿泊パターンから見る周遊ルートにおいても、福岡都心部はほぼ全ての項目で1位である。宿泊については、アンケート調査から算出された福岡都心部のみに宿泊する旅行者は3割を超え、さらにAgoda宿泊数データでも5割以上が福岡都心部へ宿泊していることから、福岡都心部のみを巡っている旅行者が多いといえる。

・福岡都心部—太宰府

前出の「福岡都心部」に太宰府を追加で訪問するパターン。モバイル空間統計の流動量では1位、DiGJAPAN!2位、アンケート調査では9位であった。ほとんど宿泊がみられないことから、福岡都心部を拠点として太宰府を訪問していると考えられる。

・福岡都心部—大分県—熊本県

モバイル空間統計の流動量で2位、13位、DiGJAPAN!で4位、FF-Data訪問パターンおよびアンケート調査で2位であった。アンケート調査結果では訪問地と宿泊地が合一のパターンが9割以上であることから、宿泊をしながら訪問をしている周遊型と推測される。

(2) 第2グループ

・福岡都心部—北九州

モバイル空間統計の流動量では3位、DiGJAPAN!では5位となった。宿泊に関しては、福岡都心部からの日帰り旅行者が多いと推測する。

・福岡都心部—大分県

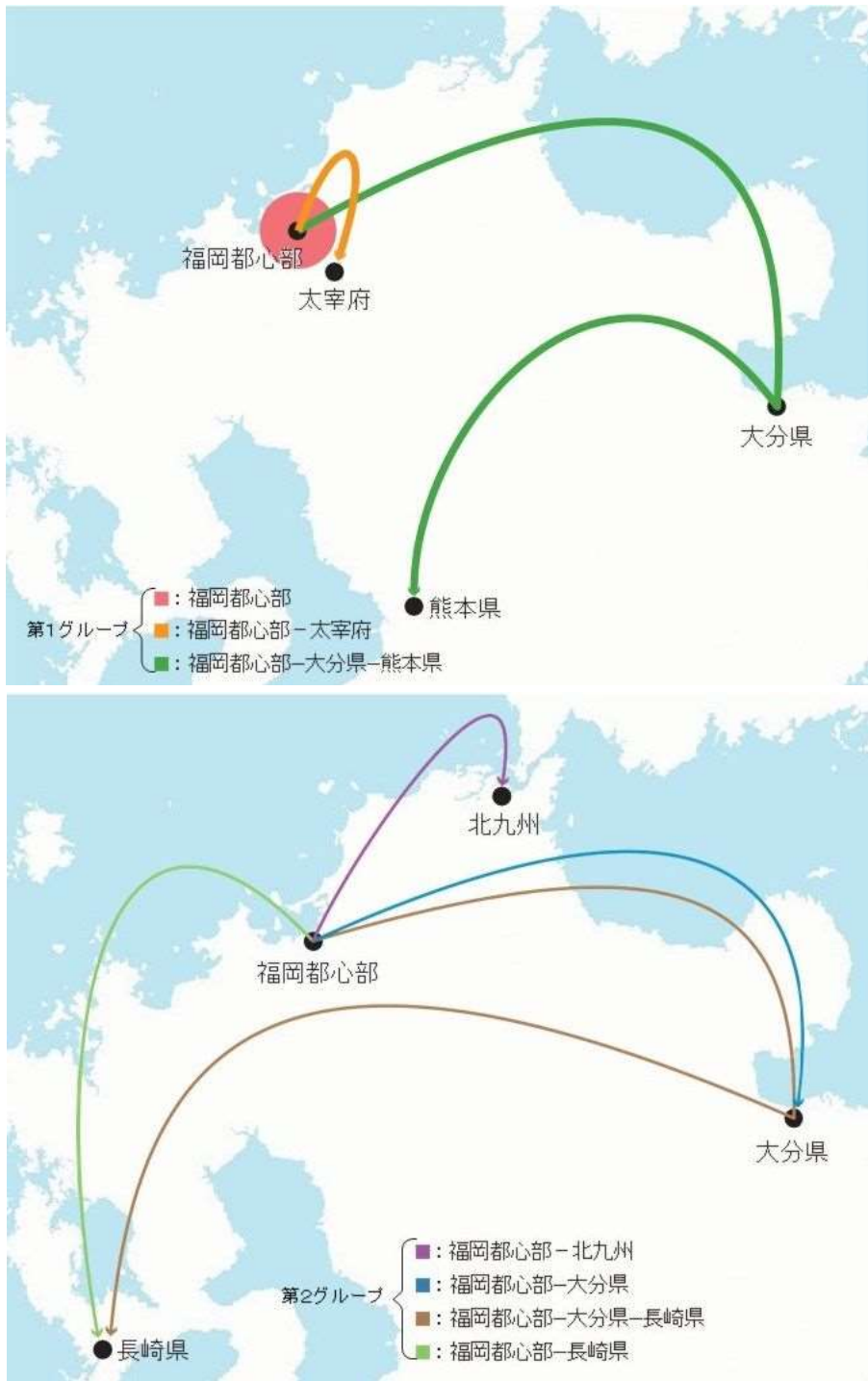
モバイル空間統計の流動量では2位、FF-Data訪問地パターンでは2位、認知度調査では3位であった。7割以上が福岡県と大分県に宿泊していることがわかった。

・福岡都心部—大分県—長崎県

前の「福岡都心部—大分県」に長崎県を周遊地として加えたパターン。モバイル空間統計の流動量では2位、4位、FF-Data訪問パターンで4位、アンケート調査で6位であった。アンケート調査より7割以上が福岡都心部・大分県、長崎県に宿泊をしていた。

・福岡都心部—長崎県

モバイル空間統計の流動量では4位、FF-Data訪問パターンで5位、DiGJAPAN!で9位であった。福岡都心部、長崎県で宿泊するパターンが多い。



図表 4-2 (27) 九州における主要ルート図

図表4-2(28) 九州における主要ルート表

グループ	九州における主要ルート	ルートの特徴
1	福岡都心部	福岡都心部のみに宿泊し、福岡都心部のみを周遊するパターン
	福岡都心部—太宰府	福岡都心部に宿泊し、太宰府を訪問するパターン
	福岡都心部—大分県—熊本県	訪問地それぞれで宿泊するパターンが多い
2	福岡都心部—北九州	福岡都心部にのみ宿泊するパターンが多い
	福岡都心部—大分県	訪問地それぞれで宿泊するパターンが多い
	福岡都心部—大分県—長崎県	訪問地それぞれで宿泊するパターンが多い
	福岡都心部—長崎県	訪問地それぞれで宿泊するパターンが多い

台湾人の九州における旅行者の流れとして、福岡都心部のみ、および福岡都心部—大分県を軸とした動きがあり、そこに太宰府、北九州、追加訪問地、熊本県、長崎県などに訪問・宿泊するパターンが見えた。九州内での宿泊数が長いため、訪れる観光地も複数にわたっている。また、訪問地とあわせて、宿泊地も移動している周遊型が多く、多くは公共交通機関（鉄道、バス）を利用していると思われる。

第2節 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート

1. 各種データによるルート分析

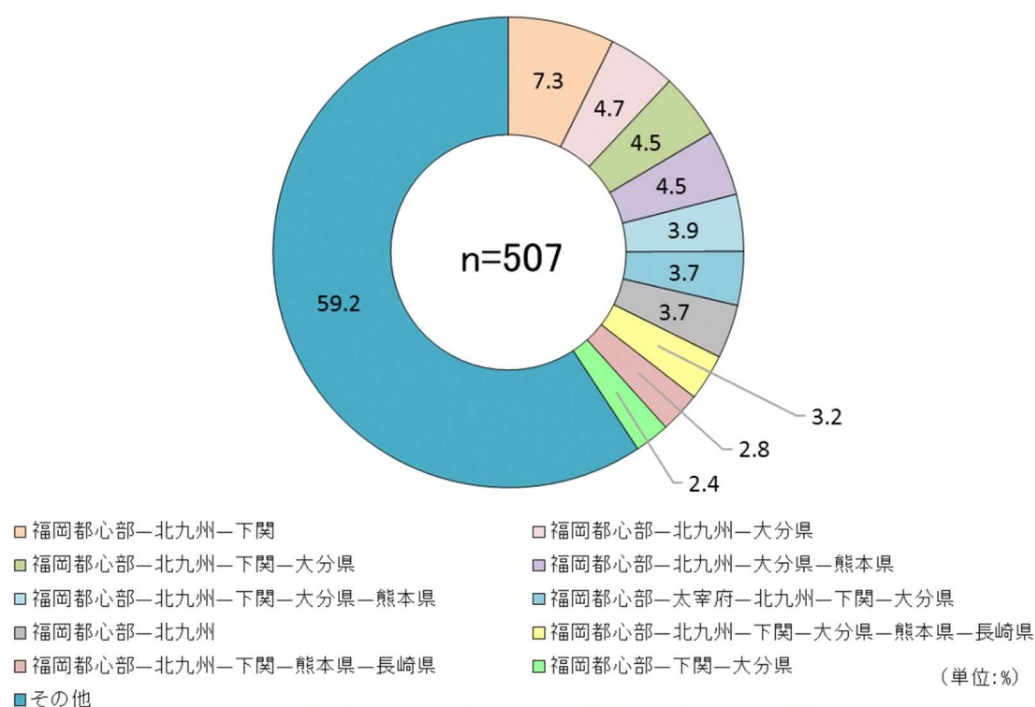
(1) アンケート調査（北九州市・下関市を訪れた個人観光客）

福岡都心部—北九州—下関の訪問パターンが最多となった。以下、6位までは福岡都心部・北九州に下関、大分県、熊本県を組み合わせたパターンが続き、7位から長崎県、太宰府が出てくる。1位から11位まで回答数に大きは見られないが、福岡都心部—北九州の組合せはほとんどのパターンに含まれている。

図表4-2 (29) 訪問パターン

順位	訪問パターン	回答数	構成比
1	福岡都心部—北九州—下関	37	7.3%
2	福岡都心部—北九州—大分県	24	4.7%
3	福岡都心部—北九州—下関—大分県	23	4.5%
3	福岡都心部—北九州—大分県—熊本県	23	4.5%
5	福岡都心部—北九州—下関—大分県—熊本県	20	3.9%
6	福岡都心部—北九州	19	3.7%
6	福岡都心部—太宰府—北九州—下関—大分県	19	3.7%
8	福岡都心部—北九州—下関—大分県—熊本県—長崎県	16	3.2%
9	福岡都心部—北九州—下関—熊本県—長崎県	14	2.8%
10	福岡都心部—下関—大分県	12	2.4%
11	福岡都心部—太宰府—北九州—下関	11	2.2%

n=507



(2) DiGJAPAN!

福岡都心部－北九州が最多で、次点はこの組合せに大分県を追加したパターン、3位には5地点含む訪問パターンとなっている。4位以下は前項同様に福岡都心部－北九州の組合せを中心に太宰府、大分県、熊本県、長崎県を含む様々なパターンがあがっている。

図表4－2 (31) 訪問パターン

順位	訪問パターン	回答数	構成比
1	福岡都心部－北九州	25	12.0%
2	福岡都心部－北九州－大分県	16	7.7%
3	福岡都心部－太宰府－北九州－大分県－熊本県	15	7.2%
4	福岡都心部－太宰府－北九州	9	4.3%
4	福岡都心部－太宰府－北九州－大分県	9	4.3%
4	福岡都心部－太宰府－北九州－大分県－長崎県－熊本県	9	4.3%
4	福岡都心部－太宰府－柳川－北九州－大分県－熊本県	9	4.3%
8	福岡都心部－北九州－大分県－熊本県	6	2.9%
9	北九州	5	2.4%
9	福岡都心部－北九州－熊本県	5	2.4%
9	福岡都心部－北九州－下関	5	2.4%
9	福岡都心部－太宰府－柳川－北九州	5	2.4%
9	福岡都心部－太宰府－北九州－大分県－長崎県	5	2.4%
9	福岡都心部－太宰府－北九州－熊本県	5	2.4%

n=209

2. 各種データによる宿泊分析

(1) Agoda 宿泊数データ

第1節で示したとおり、総宿泊数は福岡都心部が全体位の6割以上を占め、以下、大分県、熊本県を続き、北九州は6位となっている。1泊の割合は71.5%だが、2泊は20.4%を占めている。

下関は9位に上がっており、1泊が75.0%、2泊は25.0%で北九州と似た傾向である。

図表4-2 (32) 宿泊数(再掲)

順位	観光地名	総宿泊数	構成比	平均	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊	8泊以上
1	福岡都心部	8,527	64.5%	2.14	42.7%	27.2%	14.1%	9.9%	3.8%	1.3%	0.7%	0.4%
2	大分県	1,737	13.1%	1.13	89.4%	9.2%	1.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
3	熊本県	951	7.2%	1.32	73.9%	21.8%	3.5%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
4	長崎県	880	6.7%	1.30	75.8%	20.0%	2.9%	1.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
5	鹿児島県	563	4.3%	1.81	50.2%	30.5%	12.5%	4.2%	1.3%	0.3%	0.6%	0.3%
6	北九州	288	2.2%	1.55	71.5%	20.4%	1.6%	2.2%	2.2%	0.5%	1.1%	0.5%
7	宮崎県	149	1.1%	1.48	70.3%	19.8%	5.9%	2.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%
8	佐賀県	102	0.8%	1.21	84.5%	10.7%	3.6%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9	下関	10	0.1%	1.25	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10	太宰府	2	0.0%	1.00	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11	柳川	2	0.0%	1.00	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

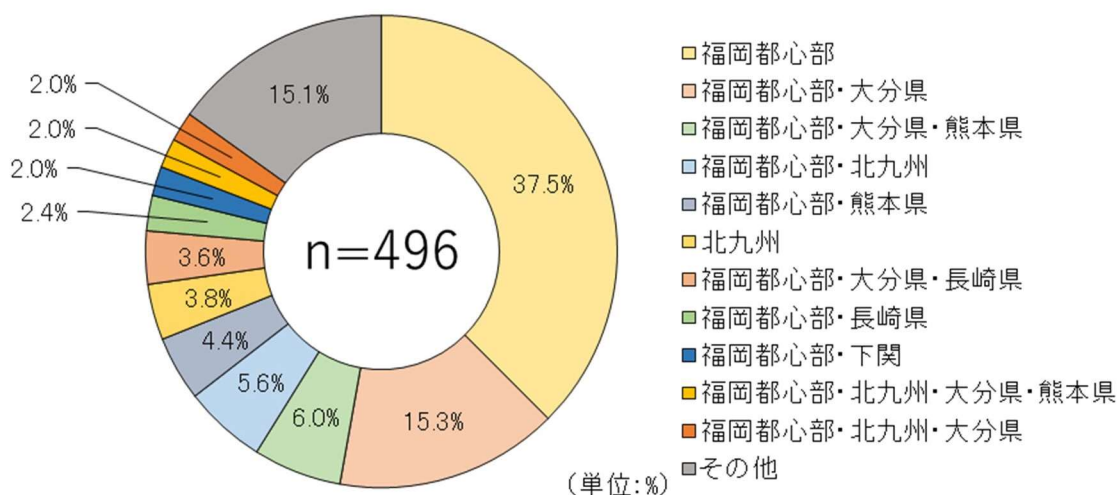
n=13,211 単位：泊

※北九州市・下関市を訪れた個人観光客に限った数値ではない。

(2) アンケート調査（北九州市・下関市を訪れた個人観光客）

最多の宿泊パターンは福岡都心部のみで 37.5%、次に福岡都心部・大分県のパターンが続くが福岡都心部のみで半分以下である。北九州市・下関市を含むパターンでは、福岡都心部・北九州の宿泊パターンが最も多いが全体からは4位である。

北九州市・下関市での宿泊は総じて少なく、福岡都心部・大分県のパターン、およびこの組み合わせを含むパターンが多い。北九州のみの宿泊は6位にあがっており、北九州を拠点に周遊していることがわかる。



※宿泊地の記載があるもの

図表4-2 (33) 宿泊パターンの割合

訪問パターンから宿泊パターンを見ると、福岡都心部のみ、および福岡都心部・北九州のパターンが高い割合を占める。上位3位までは、訪問パターンの中に北九州市、下関市が含まれているが、宿泊は福岡都心部、大分県のいずれかに宿泊し、北九州市・下関市には日帰り観光で訪問するケースが多いことがわかる。

図表4-2 (34) 主な宿泊パターンから見た訪問パターンの組み合わせ

順位	宿泊パターン	回答数	構成比	訪問パターン [回答数]
1	福岡都心部	186	37.5%	福岡都心部—北九州—下関[23] (12.4%) 福岡都心部—北九州[13] (7.0%) 福岡都心部—太宰府—北九州—下関[9] (4.8%)
2	福岡都心部・大分県	76	15.3%	福岡都心部—北九州—下関—大分県[13] (17.1%) 福岡都心部—下関—大分県[10] (13.2%) 福岡都心部—北九州—大分県[10] (13.2%)
3	福岡都心部 ・大分県・熊本県	30	6.0%	福岡都心部—北九州—下関—大分県—熊本県[11] (36.7%) 福岡都心部—北九州—大分県—熊本県[6] (20.0%) 福岡都心部—太宰府—北九州—下関—大分県—熊本県[4] (13.3%) 福岡都心部—下関—大分県—熊本県[3] (10.0%)
4	福岡都心部・北九州	28	5.6%	福岡都心部—北九州—下関[8] (28.6%) 福岡都心部—北九州[4] (14.3%)
5	福岡都心部・熊本県	22	4.4%	福岡都心部—下関—大分県—熊本県—長崎県[4] (13.6%)
6	北九州	19	3.8%	福岡都心部—太宰府—北九州—下関—大分県[3] (15.8%)
7	福岡都心部 ・大分県・長崎県	18	3.6%	福岡都心部—北九州—下関—大分県—長崎県[5] (27.8%) 福岡都心部—北九州—大分県—熊本県—長崎県[3] (16.7%)
8	福岡都心部・長崎県	12	2.4%	福岡都心部—北九州—下関—長崎県[4] (33.3%)
9	福岡都心部・下関	10	2.0%	福岡都心部—下関[2] (20.0%) 福岡都心部—太宰府—北九州—下関—大分県[2] (20.0%) 福岡都心部—北九州—下関 (20.0%)
9	福岡都心部・北九州 ・大分県・熊本県	10	2.0%	福岡都心部—北九州—下関—大分県—熊本県[5] (40.0%) 福岡都心部—北九州—大分県—熊本県[4] (40.0%)
9	福岡都心部 ・北九州・大分県	10	2.0%	福岡都心部—北九州—大分県[5] (50.0%) 福岡都心部—北九州—下関—大分県[3] (30.0%)

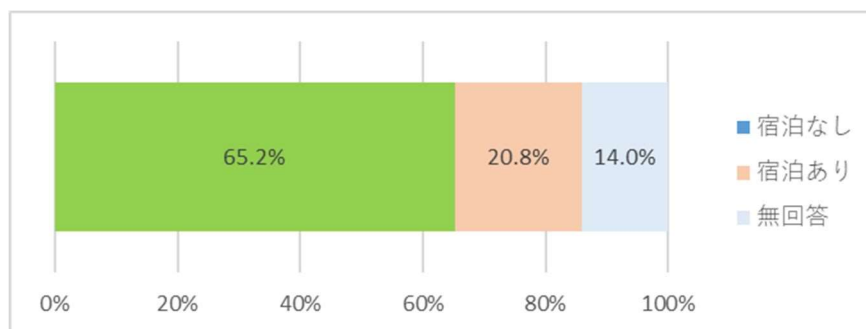
n=496 (宿泊地の記載があるもの)

図表4—2 (35) 主な訪問パターンから見た宿泊パターン

順位	訪問パターン	回答数	構成比	宿泊パターン [回答数]
1	福岡都心部—北九州—下関	37	7.5%	福岡都心部[23] (62.2%) 福岡都心部・北九州[8] (21.6%)
2	福岡都心部—北九州—大分県	24	4.8%	福岡都心部・大分県[10] (41.7%) 福岡都心部[6] (25.0%) 福岡都心部・北九州・大分県[5] (20.8%)
3	福岡都心部—北九州—下関—大分県	23	4.6%	福岡都心部・大分県[13] (56.5%) 福岡都心部・北九州・大分県[3] (13.0%)
3	福岡都心部—北九州—大分県—熊本県	23	4.6%	福岡都心部[6] (26.1%) 福岡都心部・大分県・熊本県[6] (26.1%) 福岡都心部・大分県[4] (17.4%) 福岡都心部・北九州・大分県・熊本県[4] (17.4%)
5	福岡都心部—北九州—下関—大分県—熊本県	20	4.0%	福岡都心部・大分県・熊本県[11] (55.0%) 福岡都心部・北九州・大分県・熊本県[4] (20.0%) 福岡都心部[3] (15.0%)
6	福岡都心部—北九州	19	3.8%	福岡都心部[13] (68.4%) 福岡都心部・北九州[4] (21.1%)
6	福岡都心部—太宰府—北九州—下関—大分県	19	3.8%	福岡都心部・大分県[8] (42.1%) 福岡都心部[4] (21.1%) 北九州[3] (15.8%)
7	福岡都心部—北九州—下関—大分県—熊本県—長崎県	16	3.5%	福岡都心部・北九州・大分県・長崎県[4] (25.0%) 福岡都心部[3] (18.8%) 福岡都心部・大分県・熊本県・長崎県[3] (18.8%)
8	福岡都心部—北九州—下関—熊本県—長崎県	14	3.0%	福岡都心部[7] (50.0%) 福岡都心部・長崎県[2] (14.3%) 福岡都心部・長崎県・熊本県[2] (14.3%)
9	福岡都心部—下関—大分県	12	2.6%	福岡都心部・大分県[10] (83.3%) 福岡都心部[2] (16.7%)
10	福岡都心部—太宰府—北九州—下関	11	2.4%	福岡都心部[9] (81.8%) 福岡都心部・北九州[2] (18.2%)

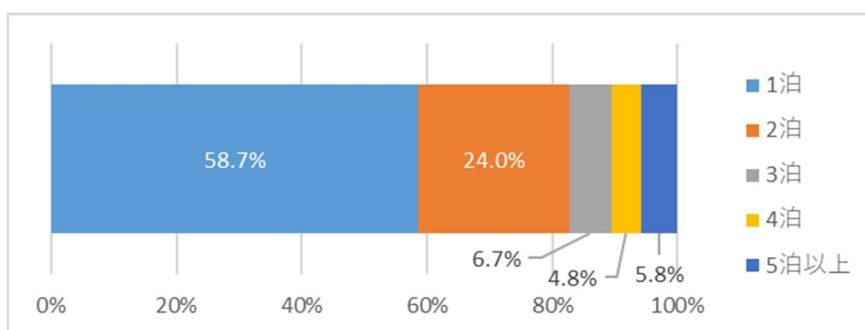
n=496 (宿泊地の記載があるもの)

北九州市・下関市の来訪者のうち、宿泊は約2割にとどまっている。



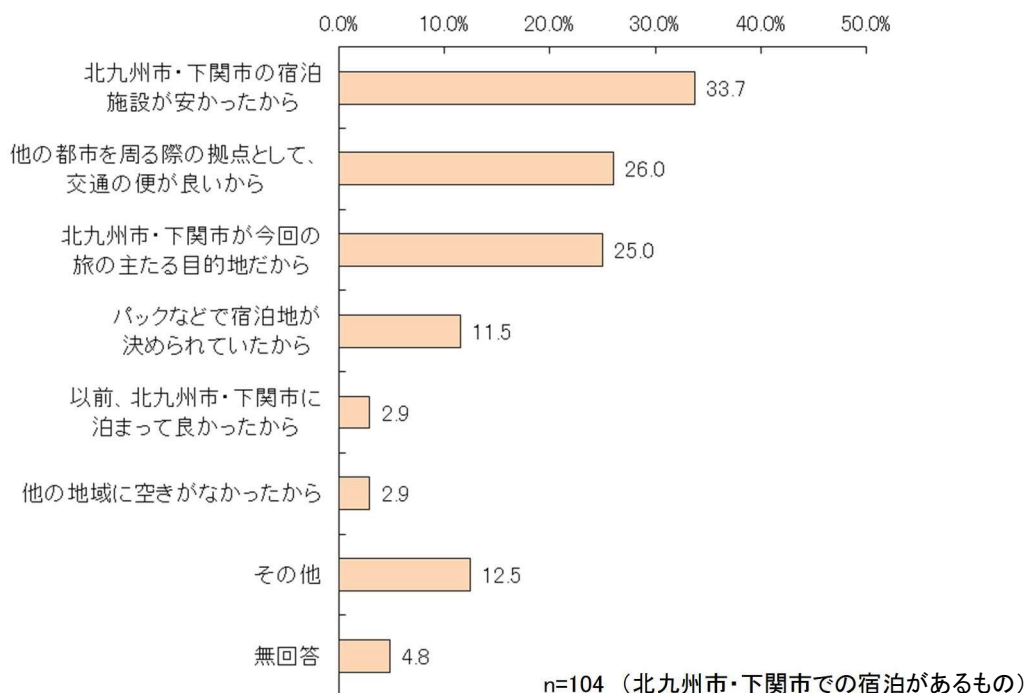
図表4-2(36) 北九州市・下関市来訪者の宿泊の有無

北九州市・下関市での平均宿泊数は1.8日である。



図表4-2(37) 北九州市・下関市での宿泊者の宿泊数

北九州市・下関市に宿泊した理由は、「宿泊施設が安かったから」が最も多く、次点では交通利便性となっている。



図表4-3(38) 北九州市・下関市で宿泊した理由 ※複数回答

3. 利用交通機関分析

福岡都心部と北九州間の移動は、JRの在来線・電車と新幹線を合わせると、約7割が鉄道を利用している。また、福岡都心部と下関間の移動も、約半数が鉄道であった。

図表4-2 (39) 北九州・下関流入出の利用交通機関

順位	流入出ルート	サンプル数	交通機関 [サンプル数]
1	福岡都心部⇔北九州	432	JR 在来線・電車[241] (55.8%) JR 新幹線[60] (13.9%) バス[55] (12.7%) レンタカー[50] (11.6%)
2	福岡都心部⇔下関	275	JR 在来線・電車[131] (47.6%) バス[44] (16.0%) 船[38] (13.9%)
3	北九州⇔由布院	37	JR 在来線・電車[22] (59.5%) JR 新幹線[5] (13.5%) レンタカー[5] (13.5%)

4. 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート

前項までの分析から、北九州市・下関市を訪れた主要ルートを以下の通りと想定した。

・福岡都心部—北九州—大分県

訪問パターンとしては、アンケート調査、DiGJAPAN!でそれぞれで2位であった。宿泊は福岡都心部、大分県で6割以上となっていた。北九州に宿泊した割合は約2割であった。

・福岡都心部—北九州—下関

アンケート調査で1位、DiGJAPAN!で9位の訪問パターンであった。アンケート調査より半数以上が福岡からの日帰り旅行者であった。

・福岡—北九州—大分県—熊本県

アンケート調査では3位、DiGJAPAN!では8位であった。宿泊については、アンケート調査によると福岡都心部・大分県・熊本県が5割以上、北九州の割合は2割弱であった。

・福岡都心部—北九州—下関—大分県

アンケート調査では訪問パターンが3位で、約1割が北九州市・下関市に宿泊していた。

・福岡都心部—北九州

DiGJAPAN!では1位、アンケート調査で6位であった。宿泊については、アンケート調査より福岡都心部からの日帰り旅行者が7割弱を占める結果となった。

・福岡—北九州—下関—大分県—熊本県

アンケート調査での訪問パターンが5位で、宿泊は福岡都心部・大分県・熊本県が5割強、北九州市では約2割であった。

・福岡都心部—太宰府—北九州—下関—大分県

アンケート調査での訪問パターンが6位で、北九州市・下関市の宿泊は1割強であった。



図表4-2 (40) 北九州市・下関市における主要ルート図

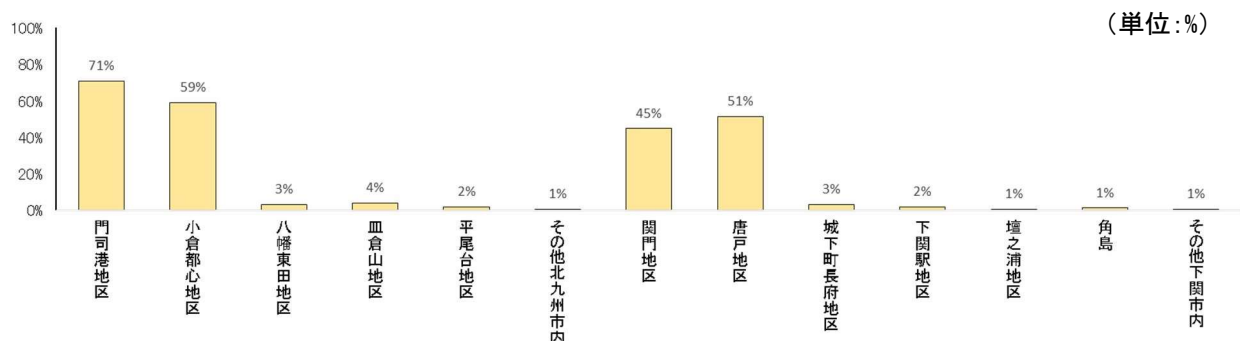
図表4-2(41) 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート表

北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート	ルートの特徴
福岡都心部—北九州—大分県	福岡都心部と大分県に宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部—北九州—下関	福岡都心部のみに宿泊するパターンが多い
福岡都心部—北九州—大分県—熊本県	北九州に宿泊するパターンは少ない
福岡都心部—北九州—下関—大分県	福岡都心部と大分県に宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部—北九州	福岡都心部にのみ宿泊するパターンが多い
福岡都心部—北九州—下関—大分県—熊本県	福岡都心部と大分県、熊本県に宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部—太宰府—北九州—下関—大分県	福岡都心部のみ、または福岡都心部と大分県へ宿泊するパターンが多い

第3節 北九州市・下関市内の訪問地

1. アンケートによる訪問地分析

北九州市・下関市内を訪れた観光客では、「門司港地区」・「小倉都心地区」・「唐戸地区」・「関門地区」の訪問率が高い。



図表4-2(42) 今回の旅行で北九州市・下関市内の訪問地（福岡空港調査分）※複数回答

2. アンケートによる利用交通機関分析

北九州市・下関市内の移動に用いた交通機関は、「JR 在来線」(56.0%)の割合が最も多く、次いで「バス」(31.6%)、「船」(16.2%)、「レンタカー」(12.8%)、「JR 新幹線」(11.6%)と続いている。

表4-2 (43) 北九州市・下関市内の利用交通機関 ※複数回答

交通機関	回答数	構成比
JR 新幹線	59	11.6%
JR 在来線	284	56.0%
モノレール	1	0.2%
バス	160	31.6%
タクシー・ハイヤー	35	6.9%
レンタカー	65	12.8%
自家用車、社用・公用車	2	0.4%
船	82	16.2%
その他	62	12.2%
無回答	31	6.1%

n=507

第5部 調査分析結果【香港編】

第1章 入出国の状況

第1節 就航状況

福岡空港へは香港から週33便の就航があり、うちLCCの香港エクスプレス航空はトリプルデイリー化されている。九州では、福岡空港の他に、熊本・宮崎・鹿児島へ就航しており、特に鹿児島空港では、香港航空週5便、香港エクスプレス週5便の計10便のデイリーに近いタイムテーブルが組まれている。



図表5-1(1) 香港と定期航路のある九州及び瀬戸内の空港

図表5-1(2) 香港と国際定期航路のある九州及び瀬戸内の空港別就航先一覧

平成30年2月1日時点(2月タイムテーブルを基準に作成)

【福岡空港】

*はLCC

路線名	便数/週	航空会社	備考
福岡 - 香港	33	キャセイドラゴン航空	平成19年10月就航
		香港エクスプレス航空*	平成26年4月就航

【熊本空港】

熊本 - 香港	2	香港エクスプレス航空*	平成29年11月就航
		(香港航空)	(平成28年4月休止)

【宮崎空港】

宮崎 - 香港	2	香港航空	平成27年3月就航
---------	---	------	-----------

【鹿児島空港】

鹿児島 - 香港	10	香港航空	平成26年3月就航
		香港エクスプレス航空*	平成28年7月就航

【広島空港】

広島 - 香港	3	香港エクスプレス航空*	平成27年10月就航
		(香港ドラゴン航空*)	(平成27年8月就航-平成28年10月休止)

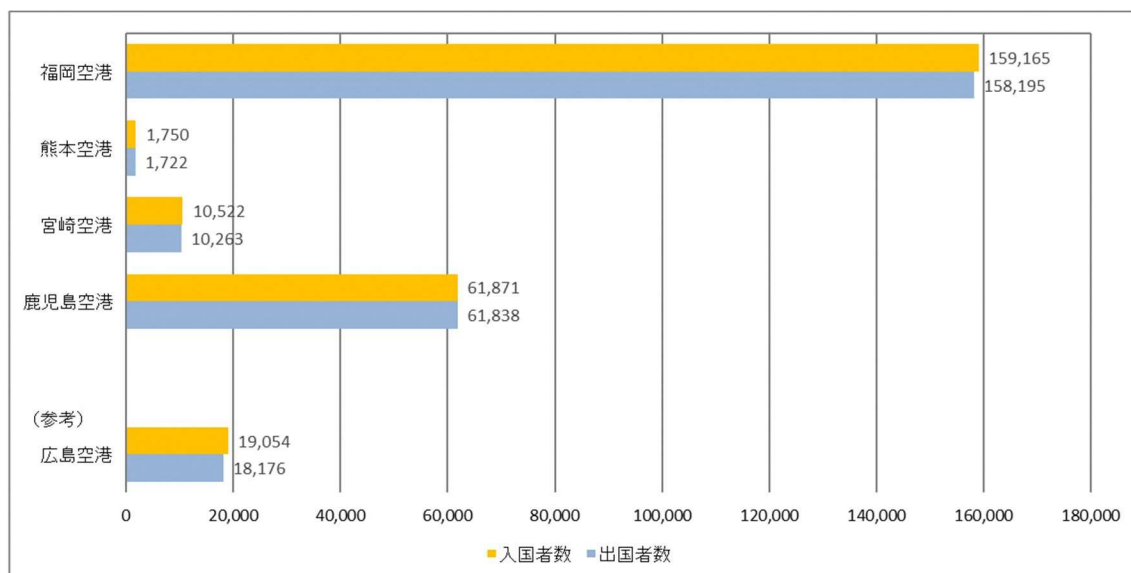
第2節 空港別入出国の状況

空港別の入国者数を見ると、香港からの入国者数が最も多いのは福岡空港の15万9千人で、続いて鹿児島空港の6万1千人となっている。韓国、台湾と比べると、鹿児島空港からの入国者割合が多い点特徴的である。



出典：法務省「出入国管理統計年報（2017年）」を加工して作成

図表5-1(3) 香港と定期航路のある九州及び瀬戸内の空港別入国者数



単位：人

出典：法務省「出入国管理統計年報（2017年）」を加工して作成

図表5-1(4) 九州及び瀬戸内の空港別入出国者数

第2章 行動パターン分析

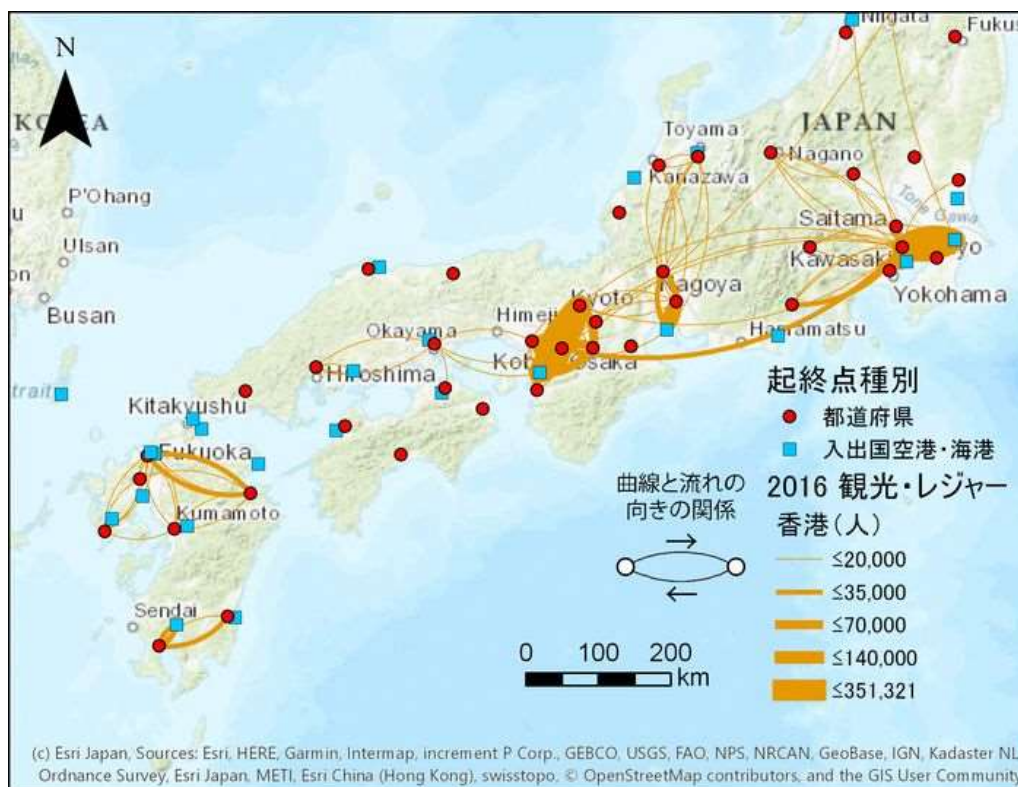
第1節 九州を訪れた観光客の主要ルート

1. 各種データによるルート分析

(1) FF-Data

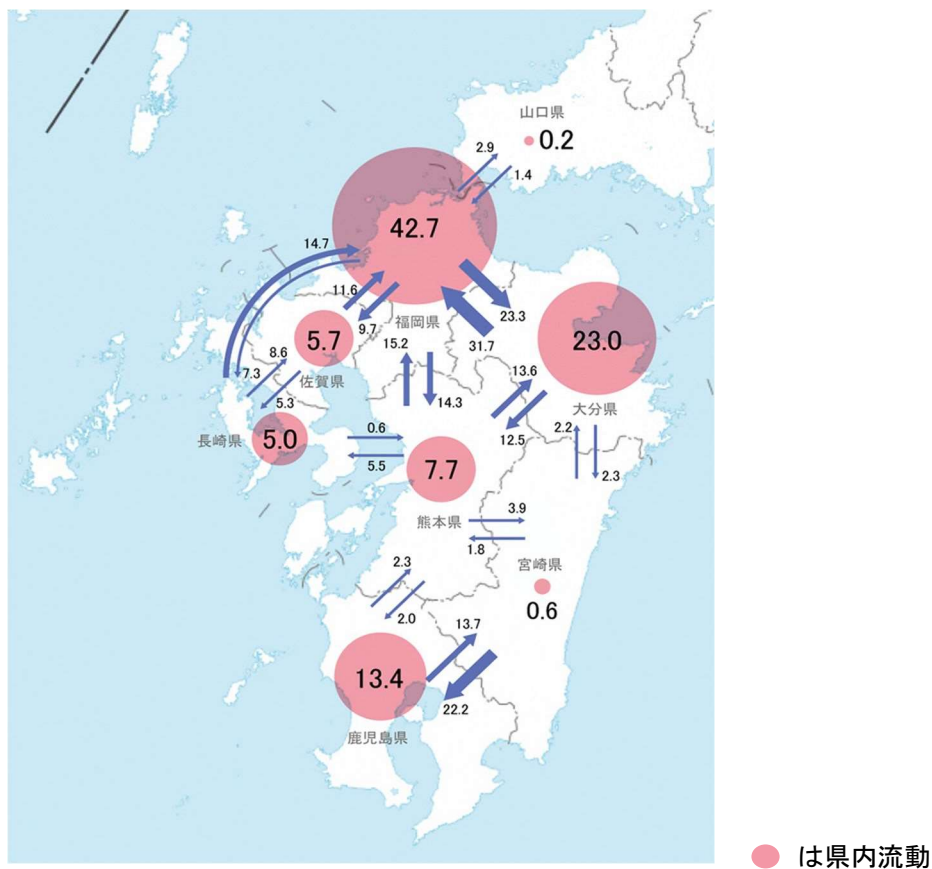
全国的に見ると、首都圏、関西圏の動きが顕著で、g ゴールデンルートと言われる首都圏と関西圏の流動も大きい。首都圏から静岡県や東北・中部への動きや、昇龍道（ドラゴンルート）といわれる東海と北陸間の動きなど、地方への動きが活発になっていることも窺える。

九州については、九州北部と九州南部でそれぞれ流動が見られ、九州北部から九州南部への動きはほとんど見られない。



図表5-2 (1) 平成28年都道府県間流動図(香港)

九州の県間流動については、出発地と目的地ともに福岡県のパターンが最も多く、次いで大分県から福岡県、福岡県から大分県の流れが見られ、福岡県－大分県間が主要な流動軸と考えられる。



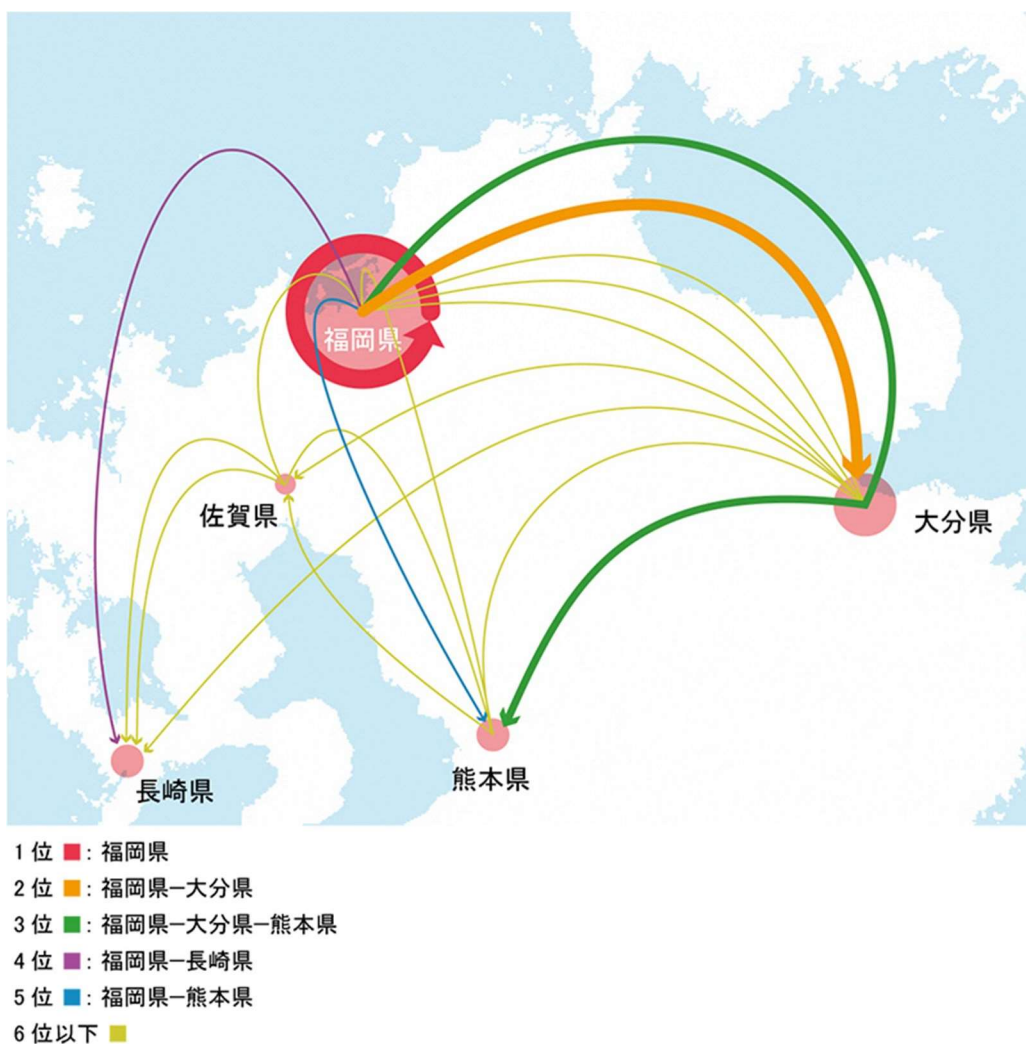
図表5-2(2) 平成28年県間流動図

図表5-2(3) 平成28年県間流動表

順位	出発地	目的地	流動量
1	福岡県	福岡県	42.7
2	大分県	福岡県	31.7
3	福岡県	大分県	23.3
4	大分県	大分県	23.0
5	宮崎県	鹿児島県	22.2
6	熊本県	福岡県	15.2
7	長崎県	福岡県	14.7
8	福岡県	熊本県	14.3
9	鹿児島県	宮崎県	13.7
10	熊本県	大分県	13.6
11	鹿児島県	鹿児島県	13.4
12	大分県	熊本県	12.5
13	佐賀県	福岡県	11.6
14	福岡県	佐賀県	9.7
15	長崎県	佐賀県	8.6

単位：千人/年

福岡空港出国者の訪問パターンを見ると、福岡県のみのパターンが27.6%と、全体の3割程度を占め、2位の福岡県—大分県、3位の福岡県—大分県—熊本県の3つのパターンで5割を超えている。



図表5-2(4) 福岡空港出国者訪問パターン図

図表5-2(5) 福岡空港出国者訪問パターン表

順位	訪問パターン	サンプル数	構成比
1	福岡県	45	27.6%
2	福岡県—大分県	28	17.2%
3	福岡県—大分県—熊本県	19	11.7%
4	福岡県—長崎県	8	4.9%
5	福岡県—熊本県	7	4.3%
6	福岡県—熊本県—佐賀県—長崎県	6	3.7%
6	福岡県—大分県—熊本県—佐賀県	6	3.7%
6	福岡県—佐賀県—長崎県	6	3.7%
6	福岡県—大分県—佐賀県	6	3.7%
10	福岡県—大分県—長崎県	4	2.5%

n=163

(2) モバイル空間統計

発着表の流動量を見ると、発着地とも福岡都心部がもっとも多く、発着それぞれの合計の4割を超える。福岡都心部に次いで多いのが、発着ともに、大分県、太宰府と続く順となっている。

図表5-2(6) 発着地別流動量

着地 発地	福岡都心部	太宰府	柳川	北九州	下関	大分県	熊本県	佐賀県	長崎県	宮崎県	鹿児島県	発地合計
福岡都心部		1,664	377	773	959	2,318	808	222	818		154	8,093
太宰府	1,532											1,532
柳川	309	182										491
北九州	1,343				372							1,715
下関	439			789								1,228
大分県	2,072											2,072
熊本県	903										311	1,214
佐賀県	256											256
長崎県	918											918
宮崎県											219	219
鹿児島県	166						315					481
着地合計	7,938	1,846	377	1,562	1,331	2,318	1,123	222	818		684	18,219

単位：人

※主要観光地単位の流動では、福岡県外の流動数が分散するため、大きな動きを把握するため、福岡県以外は県単位で集計し、福岡県については、北九州や太宰府への動きも把握するため個別に集計している。

訪問地2点間の流動では、福岡都心部-大分県が最も多く、福岡都心部-太宰府、福岡都心部-北九州、福岡都心部-長崎県、福岡都心部-熊本県と続き、上位5つの流動で7割を超えた。福岡都心部を軸として大分県、太宰府、北九州、長崎県、熊本県といった九州北部を中心とした動きが見られる。



図表5-2(7) 訪問地2点間の流動図

図表5-2(8) 訪問地2点間の流動表

順位	訪問地1	訪問地2	流動合計	構成比
1	福岡都心部	大分県	4,390	24.1%
2	福岡都心部	太宰府	3,196	17.5%
3	福岡都心部	北九州	2,116	11.6%
4	福岡都心部	長崎県	1,736	9.5%
5	福岡都心部	熊本県	1,711	9.4%
6	福岡都心部	下関	1,398	7.7%
7	北九州	下関	1,161	6.4%
8	福岡都心部	柳川	686	3.8%
9	熊本県	鹿児島県	626	3.4%
10	福岡都心部	佐賀県	478	2.6%
11	福岡都心部	鹿児島県	320	1.8%
12	宮崎県	鹿児島県	219	1.2%
13	太宰府	柳川	182	1.0%

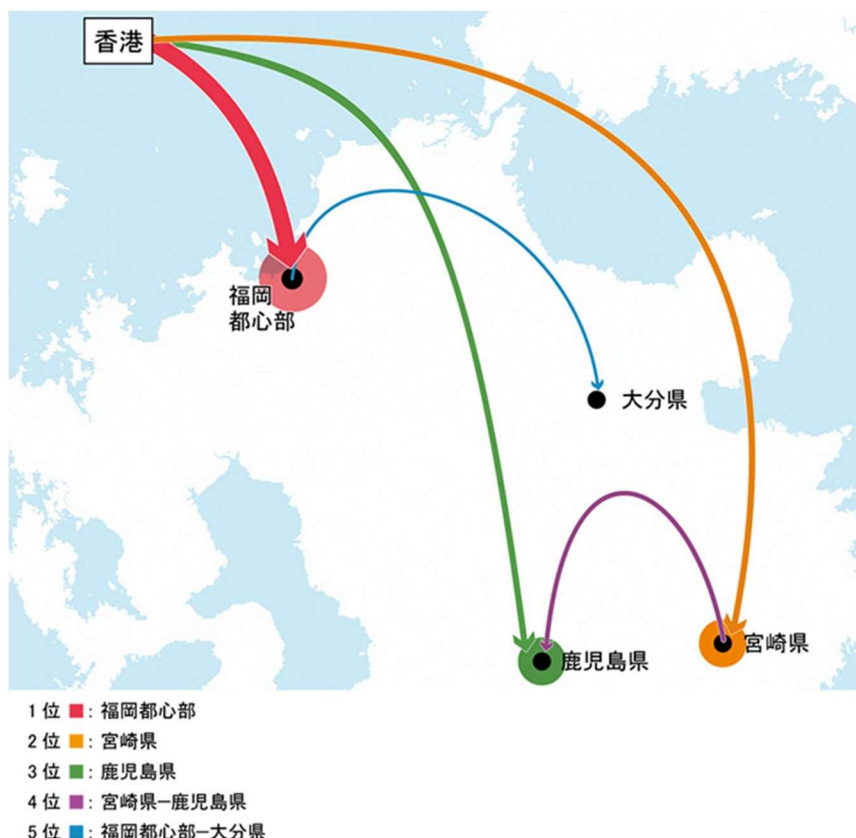
n=18,219 単位:人

※九州内での大きな動きを把握するため、以下の条件で2点間の流動を整理した。

- ①発着地を集約
- ②福岡県以外は観光地を県別を集約
- ③集約した結果、訪問地1と2が同一となるものは除く

(3) DiGJAPAN!

訪問パターンが、福岡都心部のみのパターンが最も多いが、2割に満たず、2位以降の構成比も低く、訪問パターンは分散化している。2位～4位には、九州南部の直行便のある地域の訪問パターンが挙げられたが、九州南部だけでの動きとなっているため、九州北部だけの動きに注目すると、福岡都心部—大分県、福岡都心部—北九州—大分県などが上位に挙がり、福岡都心部—大分県への訪問の途中で、北九州へ立ち寄るものと推測される。



図表5-2(9) 訪問パターン図

図表5-2(10) 訪問パターン表

順位	訪問パターン	サンプル数	構成比
1	福岡都心部	29	14.4%
2	宮崎県	16	7.9%
3	鹿児島県	13	6.4%
4	宮崎県—鹿児島県	13	6.4%
5	福岡都心部—大分県	11	5.4%
6	熊本県—鹿児島県	11	5.4%
7	福岡都心部—北九州—大分県	7	3.5%
8	福岡都心部—熊本県	6	3.0%
9	熊本県—宮崎県—鹿児島県	6	3.0%
10	福岡都心部—北九州—大分県—熊本県	4	2.0%

n=202

(4) アンケート調査（九州を訪れた香港人観光客）

※北九州市・下関市に立ち寄っていない観光客について調査

最も多い訪問地の組み合わせは、福岡都心部のみのパターンで3割を超えた。以下、大分県、熊本県、太宰府、長崎県など福岡から近い九州北部の地域へ訪問するパターンとなっている。韓国や台湾と同様に大分県が上位に入っており、福岡都心部—大分県を軸としたルートが形成されていると考えられる。



図表5-2(11) 訪問パターン図

図表5-2(12) 訪問パターン表

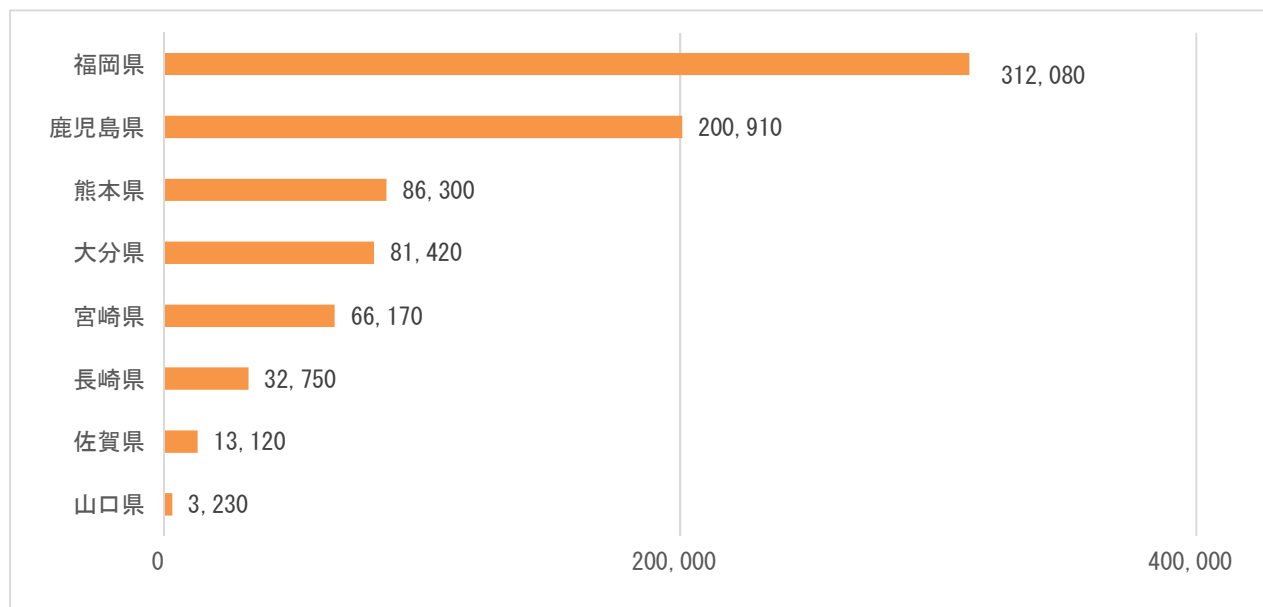
順位	訪問パターン	回答数	構成比
1	福岡都心部	86	31.0%
2	福岡都心部—大分県	51	18.4%
3	福岡都心部—大分県—熊本県	24	8.7%
4	福岡都心部—太宰府	15	5.4%
4	福岡都心部—熊本県	15	5.4%
6	福岡都心部—長崎県	10	3.6%
7	福岡都心部—佐賀県	8	2.9%
8	福岡都心部—太宰府—大分県	7	2.5%
9	福岡都心部—大分県—長崎県	4	1.4%
9	福岡都心部—大分県—熊本県—長崎県	4	1.4%

n=277

2. 各種データによる宿泊分析

(1) 宿泊旅行統計調査

県別の宿泊者数では、福岡県が最も多く、鹿児島県、熊本県と続いており、いずれも香港からの直行便が就航している地域である。大分県は直行便の就航はないものの、熊本県と同程度の宿泊者数となっており、前項のルート分析を考慮すると、福岡空港からの入国者が訪れていると考えられる。



単位：人

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査（2017年）」を加工して作成

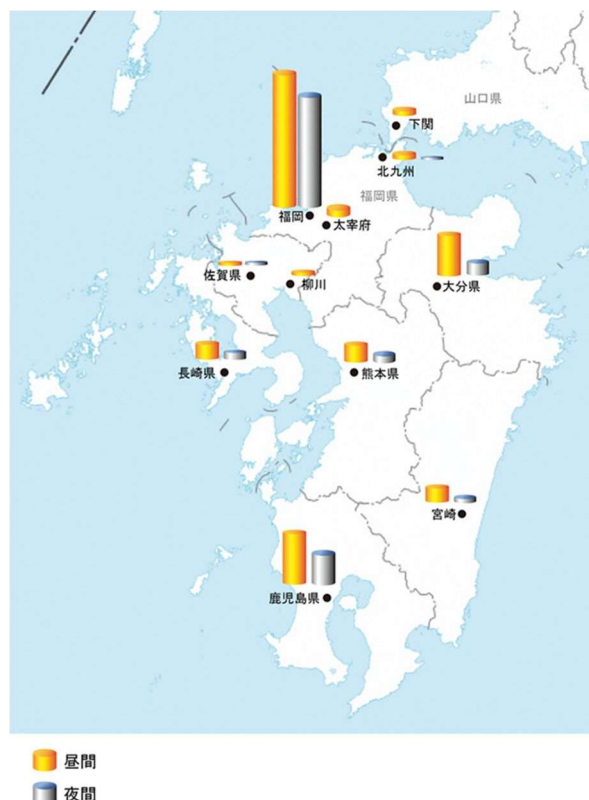
図表5-2 (13) 県別宿泊者数

(2) モバイル空間統計

福岡都心部は昼夜間ともに滞在者数が他の観光地よりも特に多く、昼夜間とも多くの人が福岡都心部に滞在していることが分かる。

九州北部では、昼間滞在者数・夜間滞在者数ともに、福岡に次いで、大分県、熊本県、長崎県が上位となっている。

昼間滞在者に比べ、夜間滞在者数が少ない地域は、日中は立ち寄りがあるものの、宿泊者数は少ないと捉えられることから、太宰府や柳川、北九州、下関などは日帰りで立ち寄られている傾向が強いと考えられる。



観光地	昼間	夜間	昼/夜
福岡都心部	31,455	26,745	1.18
太宰府	2,282	0	-
柳川	834	0	-
北九州	2,180	458	4.76
下関	1,661	0	-
大分県	9,852	3666	2.69
熊本県	4,732	2617	1.8
佐賀県	1,322	677	1.95
長崎県	3,690	2017	1.83
宮崎県	3,442	1629	2.11
鹿児島	11642	7846	1.48

単位：人

図表5-2 (14) 昼間・夜間の滞在者数

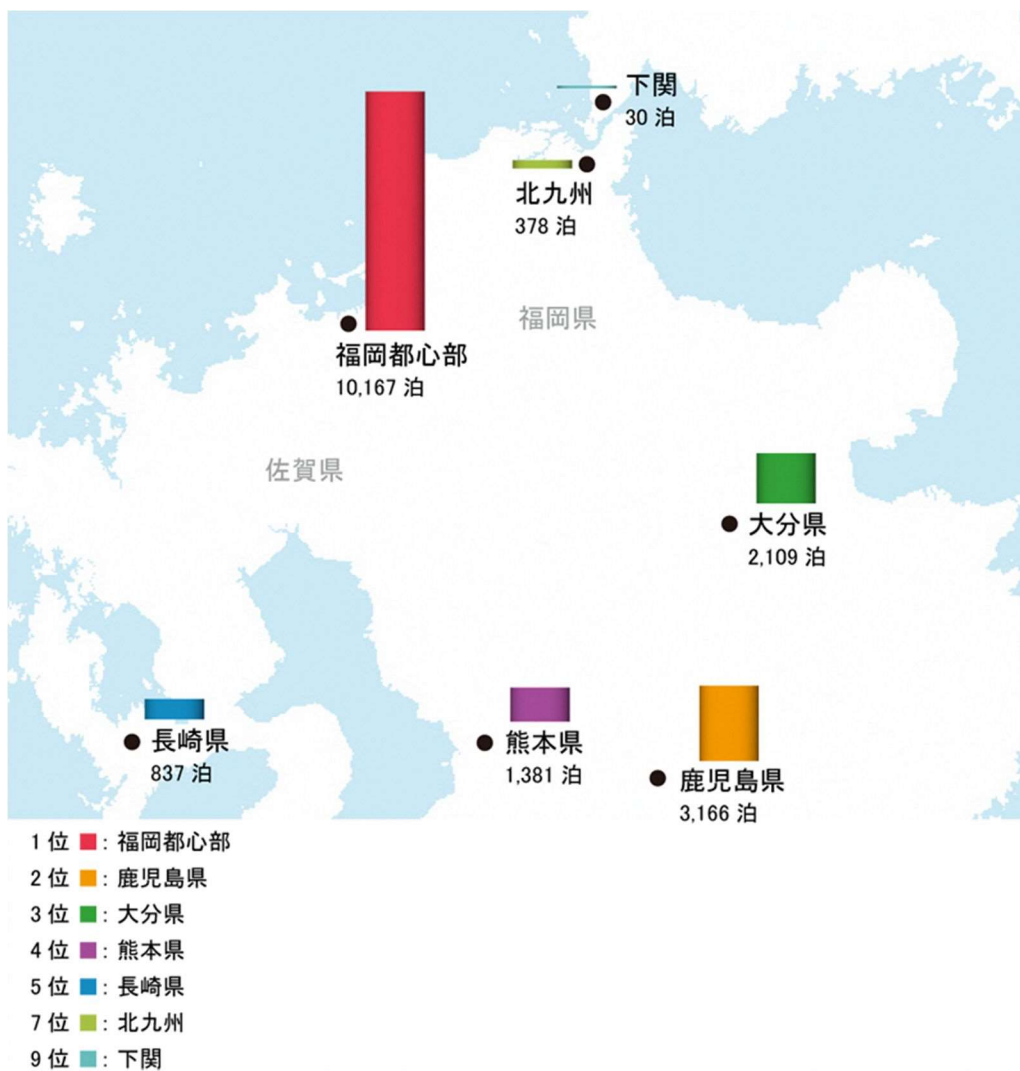
(3) Agoda 宿泊数データ

総泊数は、福岡都心部が最も多く5割を超えている。

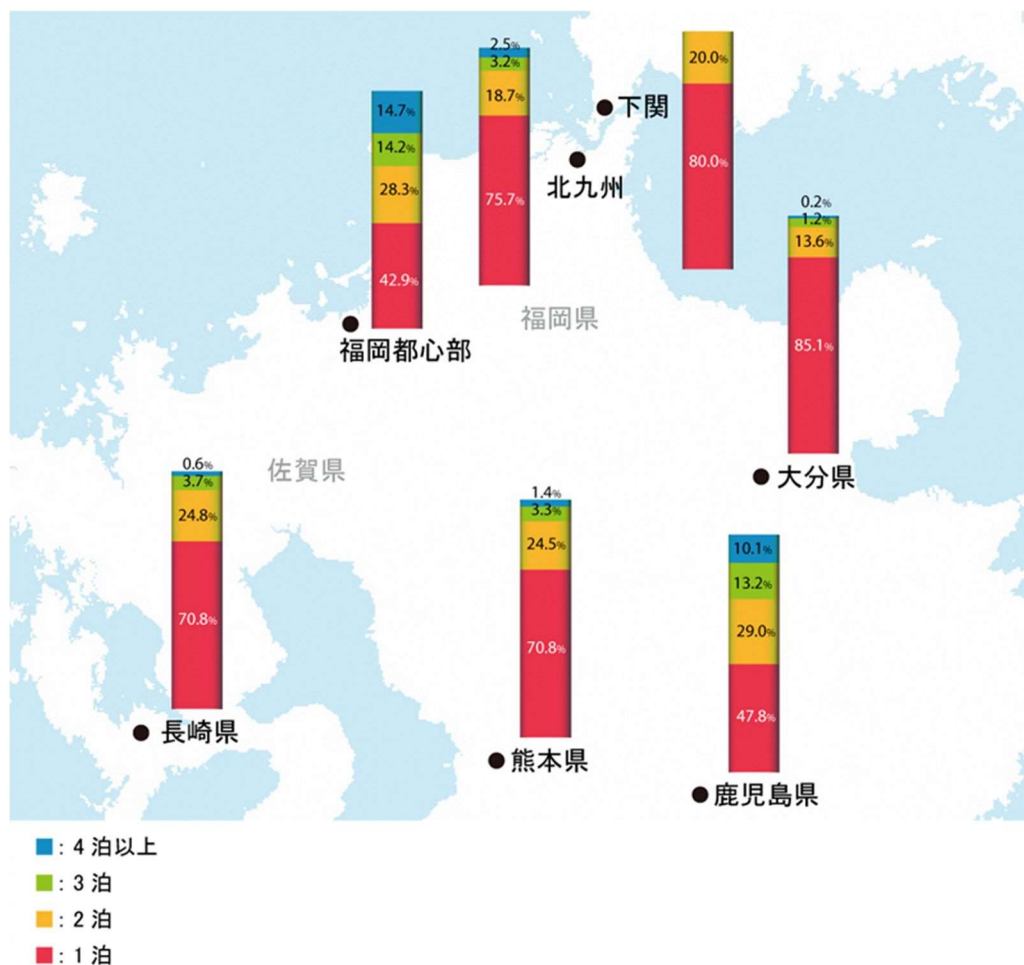
平均宿泊数については、福岡都心部、鹿児島県が他の地域と比べて長く2泊程度となっており、3泊以上の割合も他と比較して高くなっている。

大分県については、1泊が85.1%と高い。

北九州については、1泊が75.7%と多数だが、3泊以上の宿泊も多くはないものの一定数いることがわかった。



図表5-2 (15) 総宿泊数



図表 5-2 (16) 宿泊数の割合

図表 5-2 (17) 宿泊数

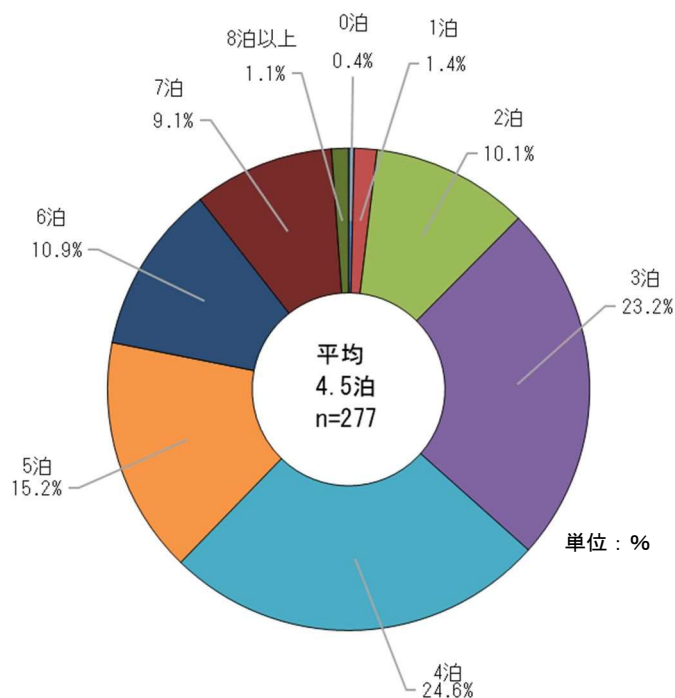
順位	観光地名	総宿泊数	構成比	平均	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊	8泊以上
1	福岡都心部	10,167	53.6%	2.10	42.9%	28.3%	14.2%	8.9%	3.3%	1.7%	0.5%	0.3%
2	鹿児島県	3,166	16.7%	1.92	47.8%	31.0%	14.1%	6.5%	2.9%	0.5%	0.7%	0.2%
3	大分県	2,109	11.1%	1.16	85.1%	34.3%	2.9%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
4	熊本県	1,381	7.3%	1.36	70.8%	36.7%	5.0%	1.6%	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%
5	長崎県	837	4.4%	1.35	70.8%	49.5%	7.4%	0.6%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%
6	宮崎県	662	3.5%	1.51	60.8%	72.6%	14.0%	5.4%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
7	北九州	378	2.0%	1.33	75.7%	52.5%	8.9%	5.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
8	佐賀県	227	1.2%	1.31	76.9%	36.9%	7.1%	2.4%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%
9	下関	30	0.2%	1.20	80.0%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10	太宰府	3	0.0%	1.00	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11	柳川	3	0.0%	1.50	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

n=18,963 単位：泊

(4) アンケート調査（九州を訪れた香港人観光客）

※北九州市・下関市に立ち寄っていない観光客について調査

宿泊数は、3～5泊で半数以上を占め、平均宿泊数は4.5泊となっている。



図表 5-2 (18) 宿泊数の割合と平均日数

最も多かった宿泊パターンは福岡都心部のみに宿泊するパターンで、約半数を占め、福岡都心部・大分県のパターンが続く。上位2位で7割を超えている。

福岡都心部のみの宿泊パターンでは、訪問パターンも福岡都心部のみの割合が最も多く6割程度となっており、福岡都心部－太宰府の訪問地パターンも含むと7割を超える。

図表 5-2 (19) 主な宿泊パターンから見る訪問パターン

順位	宿泊パターン	回答数	構成比	訪問パターン[回答数]
1	福岡都心部	139	50.5%	福岡都心部[86] (59.7%) 福岡都心部－太宰府[14.0] (10.0%) 福岡都心部－太宰府－大分県[5] (3.6%) 福岡都心部－佐賀県[5] (3.6%)
2	福岡都心部・大分県	56	20.4%	福岡都心部－大分県[46] (82.1%) 福岡都心部－大分県－熊本県[6] (10.7%) 福岡都心部－太宰府－大分県[2] (3.6%)
3	福岡都心部・大分県・熊本県	19	6.9%	福岡－大分県－熊本県[16] (84.2%)

n=275 (宿泊地の記載があるもの)